

レバノンにおける高等教育の特質と課題

—「中東の教育センター」の今—

Features of Higher Education and Their Issues in Lebanon

三 尾 真 琴

Makoto MIO

はじめに

レバノン共和国（以下レバノンと称する）は、中東地域に位置する、国土面積が約1万平方キロメートル（岐阜県の面積に相当）で、人口は400万人程度の国家である。国家規模からすれば小国の域を出ないが、歴史家ヒッティはレバノンを「中東の教育センター」と称した¹⁾。その背景には専制的色彩が強く中央集権的教育政策を取り入れている国家が多い中東地域にあって²⁾、レバノンでは表現・出版の自由が広く認められ、さまざまな書物・文献が入手可能であり、また、多様なカリキュラム編成を可能にする教育制度³⁾と高等教育の充実が存在していた。近隣アラブ諸国を中心に高等教育を求める留学生がレバノンに集い、知識や経験を吸収し、それらを母国へ持ち帰るといったセンターとしての役割を担ったことがその名の由来となっている。その代表格が、アメリカ大学（American University of Beirut）とサン・ジョゼ大学（Universite Saint Joseph）である。両高等教育機関とも1860から70年代にかけてキリスト教宣教師組織によって設立され、長年にわたりレバノンの高等教育を主導してきた。

レバノンは、1975年から90年までの15年に

およぶ内戦を経験した。この内戦はレバノン社会だけでなく高等教育にも大きな影響を与えた。戦禍を避けるため多くの外国人教員がレバノンを離れあるいは母国へ帰国した。また、イランとシリアから支援を受け、「反米・反イスラエル」を活動の中心に位置づけるヒズブッラー（現シーア派系政党）などの台頭により、米国との関係が悪化し、アメリカ系高等教育機関では教員の確保とカリキュラム編成に支障が生じた。さらに、21世紀に入り、UAE、オマーン、カタールなどの湾岸諸国を中心に、「学園都市」構想の推進に加え、欧米の高等教育機関をブランチとして誘致し、アラブ諸国の留学生を獲得しようとする戦略が活発化している。

このように高等教育をめぐる変動が認められるなか、レバノンの各大学はどのような教育を実施しているのか、ヒッティが指摘した「中東の教育センター」的機能は現在でも存在しているのか。本論では、レバノンで開設されている38の高等教育機関の設立年・学生数などの概要を整理するとともに、アメリカ大学とサン・ジョゼ大学に加え、唯一の国立大学であるレバノン大学（Lebanese University）、留学生の受け入れに積極的な

アラブ大学 (Beirut Arab University), 20世紀の初頭にオスマン帝国から難民として流入したアルメニア系組織によって設立されたハイガジアン大学 (Haigajian University) の5機関に着目し, レバノンにおける高等教育機関の社会的役割と特質を明らかにする。

1 レバノンの近代教育と高等教育の歩み

レバノンにおける高等教育の礎となる教育機関の導入は, キリスト教マロン派 (ローマ・カトリックに帰属)⁴⁾ とヨーロッパ諸国との良好な関係が土台となっている⁵⁾。1584年, ローマ教皇グレゴリー8世は, マロン派子弟の聖職者養成特別学校として, ローマにマロン派学校 (Maronite College) を設立した。17世紀から18世紀にかけて, ヨーロッパから戻ったマロン派の聖職者が, 神父として赴いた村々で簡素な学校を建て, 聖書を用いたキリスト教教育をおこない簡単な読み書きを教えた⁶⁾。また, 修道院のなかに学校が作られた。19世紀にはいると, フランス, アメリカ, イギリスなどのキリスト教宣教師がバイルートに到着し, 布教活動とともに宗教教育と読み書きを中心にした学校を建設し, その活動を広げていった⁷⁾。

1834年, アメリカのプロテスタント教団は, 彼らの印刷機械をマルタからバイルートに移し, バイルート市内に女子学校を設立した⁸⁾。この印刷機によってアラビア語による大量の教材作成が可能になった。当時, ローマ・カトリック宣教師は, ギリシャ正教やシリア正教など東方系キリスト教徒をカトリックへ改宗させることに力を注ぎ⁹⁾, レバノンでの教育機関の建設にはそれほど関心をもっていなかった。しかし, アメリカ・プロテスタント宣教師が熱心に教育活動に取り組みはじめたことに刺激を受け, カトリック宣教師も翌年には印刷機を導入し¹⁰⁾, 学校建設に積極的に

取り組んだ。ここに中東地域でもっとも古い近代高等教育機関が開設されることになった。1866年に現在のアメリカ大学の前身にあたるシリア・プロテスタントカレッジ (Syrian Protestant College), 1875年にはサン・ジョゼ大学の前身のイエズス・セミナリー (Jesuit seminary) の2校が相次いで設立された¹¹⁾。その後, フランスによる委任統治, 同国よりの独立, 内戦の勃発などレバノンはさまざまな環境変化を経験してきたが, アメリカ大学とサン・ジョゼ大学ともレバノンのみならず中東アラブ地域を代表する高等教育機関として位置づけられてきた。

2 レバノンにおける高等教育機関と特質

(1) レバノンの高等教育機関

レバノンには, 現在, 38の高等教育機関が設置されている¹²⁾。表1はレバノン教育省の資料に基づく高等教育機関の設立年と学生数, 留学生数ならびにその比率を表したものである。

アメリカ大学とサン・ジョゼ大学は, 19世紀半ばに設立された大学であるが, サジェス大学 (La Sagesse University) もサン・ジョゼ大学と同じ1875年に設立されており, これら3大学は130年以上の歴史を有している。サジェス大学は, レバノンの有力キリスト教系宗派であるマロン派によって創設され, 教授言語はフランス語である。レバノン・アメリカ大学 (Lebanese American University) は, 1927年, アメリカ大学を設立したプロテスタント組織が女子高等教育機関としてバイルートに設立した。同大学は現在では男女共学となっている。一方, 国立大学であるレバノン大学は1951年に設立された。しかし, 設立当初は教育学部をもつ単科大学に過ぎなかった。その後, 1955年にアルメニア教会によって設立されたハイガジアン大学, 1960年には

レバノンにおける高等教育の特質と課題（三尾 真琴）

表 1

#	大学および高等研究所	設立年	学生数	レバノン人	留学生	留学生比率
1	Lebanese University (public)	1951年	74,176	70,202	3,974	5.4%
2	Beirut Arab University	1960年	17,661	7,977	9,684	54.8%
3	Saint Joseph University	1875年	9,361	8,968	393	4.2%
4	American University of Beirut	1866年	7,078	5,906	1,172	16.6%
5	Holy Spirit University-Kaslik	1961年	6,791	6,704	87	1.3%
6	Lebanese American University	1927年	4,879	4,038	841	17.2%
7	Haigazian University	1955年	655	619	36	5.5%
8	Notre Dame University	1987年	4,959	4,770	189	3.8%
9	Al-Da'wa University Institute for Islamic Studies	1984年	299	161	138	46.2%
10	La Sagesse University	1875年	2,274	2,255	19	0.8%
11	Imam Ouzai Islamic College	1979年	4,482	3,642	840	18.8%
12	Middle East University	1939年	124	114	10	8.1%
13	Makassed University In Beirut	1966年	196	172	24	12.2%
14	St. Peter Institute for Philosophy and Liturgy	不明	75	32	43	57.3%
15	Balamand University	1988年	3,194	2,994	200	6.3%
16	Far-East College of Liturgy	不明	16	10	6	37.5%
17	Beirut Islamic University	1982年	430	274	156	36.3%
18	Al-Jinan University	1988年	1,615	865	750	46.4%
19	Tripoli University Institute for Islamic Studies	1982年	163	117	46	28.2%
20	Islamic University in Lebanon	1995年	3,740	3,099	641	17.1%
21	Ecole Superieure des Affaires (ESA)	1996年	385	380	5	1.3%
22	Antonine University	1996年	1,412	1,394	18	1.3%
23	Hariri Canadian University for Science & Technology	1999年	810	778	32	4.0%
24	University Center for Technology (Dedeh)	1999年	399	367	32	8.0%
25	Higher Institute for Physiotherapy (Jounieh)	不明	60	60	0	0%
26	University Institute for Technology & Education (Kafaat)	1957年	808	807	1	0.1%
27	American University of Technology	2001年	421	421	0	0%
28	Higher Institute for Nursing Sciences & Physiotherapy	2008年	256	256	0	0%
29	Saidoun University Institute for Dentistry	不明	29	23	6	10.7%
30	Business & Computer University College (Hawaii University)	1998年	3,744	3,210	534	14.3%
31	C&E American University	1983年	2,190	1,698	492	22.5%
32	American University of Science & Technology	1994年	2,102	1,954	148	7.0%
33	Higher & International Institute for Business Administration (ESIG)(Aintoura)	不明	408	407	1	0.2%
34	MECAT University	2000年	693	635	58	8.4%
35	Joya University Institute for Technology	不明	50	0	50	100%
36	Arab Open University	2002年	3,452	3,290	162	4.7%
37	Lebanese International University	2001年	7,645	7,290	355	4.6%
38	Al-Manar University	1990年	133	128	5	3.8%
計			167,090	145,942	21,148	12.7%

・出典：Ministry of Education, CRDP:Preliminary Statistics for the Academic Year 2007-2008

エジプト政府の支援によって設立されたアラブ大学などが続く。歴史を有する高等教育機関が存在する一方で、1980年代から2000年初めにかけて設立された新しい機関も少なくない。

大学の設置者ではレバノン大学が唯一の国立大学であり、その他はすべて私立大学である。それらの設立母体は、アメリカ大学とレバノン・アメリカ大学ならびに中東大学(Middle East University)がキリスト教プロテスタント系組織であり、サン・ジョゼ大学がイエズス会である。ただし、アメリカ大学は1960年代に宗派系組織の参画・運営を排している。キリスト教系マロン派による設立は、サジェス大学に始まり、1961年のカスリク大学(Holy Spirit University-Kaslik)と1987年のノートルダム大学(Notre Dame University)に代表される。東方教会(正教)系としては1988年に設立されたバラモント大学(Balamand University)があり、アルメニア教会によるハイガジアン大学が開設されている。一方、イスラーム系としては、1979年にイマーム・ウザイ・イスラーム大学が近代高等教育機関として最初の設立であり、その後、1982年にバイルート・イスラーム大学(Beirut Islamic University)、1995年にレバノン・イスラーム大学(Islamic University in Lebanon)などが設立された。レバノンの高等教育は初等・中等教育と同様にキリスト教系宗派によって礎が築かれ、その後、イスラーム諸組織が参入する構図となっている。

高等教育機関で学ぶ学生の総数は167,090名(2008年時点)であり、そのうちレバノン人は145,942名である。もっとも多くの学生を擁するのはレバノン大学の74,176名である。次いでアラブ大学が17,661名、サン・ジョゼ大学が9,361名、レバノン国際大学

(Lebanese International University)が7,645名、アメリカ大学が7,078名、カスリク大学が6,791名となっている。これらの大学は、レバノン国際大学を除き、設立から50年以上を経過している。そのなかにおいてレバノン国際大学は2001年の設立であり、10年ほどの歴史で学生数の上位校と肩を並べる存在になった。学生数ではレバノン大学が学生総数の48.1%を占め、数字上、レバノン人大学生の二人に一人はレバノン大学に在籍していることになる。

留学生の比率は全体で14.5%に相当し、その値は高等教育機関によって大きく異なっている。学生数が100名以上の機関でもっとも留学生数が多いのはアラブ大学の9,684名で、その比率は54.8%にも達する。次いでレバノン大学の3,974名である。ただし、その比率はわずか5.4%である。レバノン大学の入学要件であるレバノンでのバカロレア取得が影響しているものと思われる。3番目がアメリカ大学の1,172名で、比率は16.6%である。その次が841名で17.2%のレバノン・アメリカ大学であり、840名で18.8%のイマーム・ウザイ・イスラーム大学が5番目である。留学生に関する特徴として、アラブ系あるいはイスラームの冠がついた高等教育機関では一般に留学生の比率が高い。例えば、前述のアラブ大学とイマーム・ウザイ・イスラーム大学に加え、バイルート・イスラーム大学の36.3%、レバノン・イスラーム大学の17.1%などがあげられる。一方、キリスト教系、とくにカトリック系大学の比率の低さが目立つ。例えば、サン・ジョゼ大学では393名の留学生で比率が4.2%、カスリク大学では87名で1.3%、ノートルダム大学では189名で3.8%、サジェス大学では19名の0.8%である。レバノンのカトリック系大学は、一般に、教授言語がフランス語であり、近隣アラブ諸国でそ

の習得が容易でないこと、同様の大学はフランスをはじめヨーロッパ諸国に数多く開設され、レバノン以外の選択が可能であることなどが留学生比率に反映しているものと思われる。

わが国では私立の高等教育機関に対しても学部の特徴や入学者数に応じて財政支援がなされているのに対して、レバノンでは原則として私立学校に財政支援が行われていない¹³⁾。レバノンでは、「公立教育機関＝公教育、私立教育機関＝私教育」という認識が徹底されている。それは大学入試にも現れており、選抜試験は大学間で異なり統一されていない。例えば、アメリカ大学はバカロレアの得点と大学進学適性テスト（SAT）で判定するのに対し、レバノン大学は医学部、歯学部、薬学部、工学部、理学部など理系学部を除き、バカロレア資格者にはいわゆる入学試験を課さない¹⁴⁾。それがレバノン大学への入学者の偏重をもたらす要因にもなっている。また、アメリカ大学やサン・ジョゼ大学、レバノン大学の医学部、薬学部、工学部などの有名大学、学部へ進学する生徒の大半は私立学校の卒業生である¹⁵⁾。

レバノンには130年以上の歴史をもつ高等教育機関が存在する一方、開設20年未満の機関も相当数あること、レバノン大学の在籍生が74,176名と突出し、レバノン大学だけで全体の学生数の44.3%（レバノン人学生では48.1%）を占めること、留学生の受け入れは大学間で大きな相違がみられることなどが教育省の統計資料によって明らかになった。では、10年前の高等教育機関はどのような状態であったのであろうか。1997年の教育省の資料では、当時、レバノンには23の高等教育機関が開設されており、学生総数は約85,000名であった¹⁶⁾。これらの学生のうち、57,000名がレバノン大学に在籍しており、その割合は

2008年時よりもさらに高く67%に相当した。その後の10年でレバノンには新しい高等教育機関が開設され、レバノン大学への集中度がいくぶん緩和されたといえるかもしれない。留学生は約24,000名が在籍しており、全体の28%に相当した。当時でも、アラブ大学の留学生比率が突出しており、約11,000人の学生数のうち58%が留学生であった。

（2）高等教育機関の特質 （アメリカ大学とサン・ジョゼ大学）

アメリカ大学は、現在、農業科学部、教養科学部、工学・建築学部、健康科学部、医学部、経営学部の6学部をもち、また、宗派系団体の大学運営を廃している。この方針は思考や表現の自由を促進させながら創造性や批判的思考が可能な人材を育成するという、アメリカ大学の教育理念に沿ったものであり¹⁷⁾、そこには宗教や信仰に結びつく文言は見当ら



アメリカ大学



アメリカ大学



サン・ジョゼ大学



サン・ジョゼ大学

ない。

サン・ジョゼ大学は、宗教科学部、医学部、薬学部、歯学部、看護科学部、工学部、科学部、法学と政治科学部、経済科学部、経営学部、文学と人間科学部、教育科学部の学部と関連する研究機関を有している。イエズス会は現在でも経営母体となっている。1975年に策定された「大学憲章」には特定の宗教にはとらわれない科学を基礎とした教育の提供、多文化主義に立脚した批判的精神の育成などの教育理念が示されているが、第4章には「設立以来培ってきたキリスト教的観点に立って」の一文があるように¹⁸⁾、カトリック信仰を中心としたキリスト教的精神が大学運営の基盤にあると考えられる。

アメリカ大学とサン・ジョゼ大学はともに長い歴史をもち、優れた教育水準を維持してきたことから、これまで研究者からも研究テーマとして着目されてきた。例えば、アメリカ

大学教育学部のムニール・バッシュール (Munir Bashshur) もその一人であり、表2は、彼の研究成果を参考し作成したものである。

表2 アメリカ大学 (AUB) とサン・ジョゼ大学 (USJ) との比較

	AUB	USJ
①設立	1866年	1875年
②母体	プロテスタント組織 —現在は宗教色排除	イエズス会
③教授言語	英語	フランス語
④ムスリム	70%	15%
⑤留学生	15%	5%
⑥就職	マスコミ、教員 湾岸諸国 (職種はさまざま)	上級公務員 法曹界

両大学間にみられる相違は、1) 設立組織とその後の関与、2) 入学試験、3) 開設学部と就職先、4) 教授言語などである。アメリカ大学の前身はシリア・プロテスタント・カレッジであり、当初、プロテスタント系の高等教育機関として開設された。しかし、1960年代に、大学運営に対する特定宗派の関与を否定し、世俗的な教育方針に転換している。一方、サン・ジョゼ大学は現在でもイエズス会による大学運営がおこなわれている。教授言語はアメリカ大学が英語であるのに対して、サン・ジョゼ大学はフランス語である¹⁹⁾。

アメリカ大学を「開かれた」大学と表現するとすれば、サン・ジョゼ大学は「閉じられた」大学といえる。アメリカ大学では全学生の70%程度がムスリムでキリスト教徒は少数派であるのに対し、サン・ジョゼ大学では学生の大半がキリスト教徒で占められている。また、サン・ジョゼ大学の法学部が高い評価を受け、同大学出身者が就職先としてレバノン国内の上級公務員や法曹界を目指すのとは異なり、法学部をもっていないアメリカ大学

では海外に活路を見出す学生やジャーナリスト、起業家あるいは私立学校の教員などに就く者が相対的に多い。バシユールによれば、上級公務員の数はアメリカ大学出身者を1とした場合、サン・ジョゼ大学出身者は25になるという²⁰⁾。

（レバノン大学）

レバノン大学は1951年に設立された国立総合大学である。現在、17の学部（人文学部、法学部、科学部、社会科学部、芸術学部、教育学部、メディア学部、商学部、工学部、農学部、公共衛生学部、医学部、歯学部、薬学部、観光学部、経済学部、情報技術学部）をもつが、開設された年は教育学部のみで単科大学であった（当時入学者はわずか68名であった）。レバノン大学内には日本語コースが開設されており、わが国政府は同大学へのLL教材購入資金への支援を行った実績をもつ²¹⁾。



レバノン大学



レバノン大学

レバノン大学の特徴は、ベイルートのみならず山岳レバノン、北部レバノン、南部レバノン、ベカーといった全国の主要都市にブランチをもっている点であり、レバノンの全大学生の48.1%に相当する約70,000人がレバノン大学に在籍している点である。バカロレア（高校卒業の認定）の保持者であれば、医学部や歯学部、薬学部、工学部など一部の学部・学科をのぞき、無試験で入学できる制度の存在が大きい。また、登録諸費用としてUS\$100程度必要であるが、授業料は原則無料である。しかし、この在学者数はレバノン大学の収容能力を超えたもので、教室に入れない、トイレが足りない、教育・研究設備が不充分などの苦情をもたらしている。実際、大学の現状を訴え、改善を求める学生のストライキも少なくない。また、教官の側でも、給料の値上げ、研究等への予算の増額などを要求して同様にストライキがおこなわれている²²⁾。レバノン大学をめぐる環境は必ずしも良好とはいえず、それはレバノン大学を卒業する学生が入学時の30%程度にすぎないという事実²³⁾が証明している。

（アラブ大学）

アラブ大学は1960年にエジプトのアレクサンドリア大学（Alexandria University）の支援のもとに設立され、現在でも、学生・教員間の交流が継続されている²⁴⁾。2010年時点



アラブ大学

で、10学部（教養学部、法・政治学部、経営学部、建築学部、工学部、自然科学部、薬学部、医学部、歯学部、健康科学部）を有する総合大学である。教育目的は、質の高い教育をレバノン人学生とアラブ系学生に提供することをとおし、レバノンならびにアラブ社会に貢献できる学生を育成していくことを掲げている²⁵⁾。アラブ大学の特徴は留学生の占める割合の高さである。約18,000人の在学学生に対して留学生は約9,700人であり、その比率は54.8%にも達する。医学部、歯学部、薬学部、工学部、建築学部などには外国語力や専門・適正を問う試験が課されるものの、その他の学部には高等学校の授業資格があれば試験がないこと、授業料が年間US\$500程度であること、アラブ大学を卒業時にアレクサンドリア大学の卒業資格が得られること、などが魅力になっているという²⁶⁾。教授言語はアラビア語であるが、学科やコースによっては英語ならびにフランス語でも対応できるシステムをもつ。もう一つの特徴は、留学生を含み、学生のほとんどがスンナ派ムスリムであるという点である。ただし、イスラーム教育は行われていない。

（ハイガジアン大学）

ハイガジアン大学は、アルメニア・エヴァンジェリカル教会（プロテスタント系）によって人文科学系の高等教育機関として1955年に



ハイガジアン大学

設立された。英語を教授言語とし、アメリカの大学をモデルにしたカリキュラム編成がなされている。大学の使命は、教育・研究上の自由と真実の普及を掲げ、リーダーシップと専門性の両面からアルメニア社会ならびにレバノン社会で貢献できる人材の育成を目指している²⁷⁾。ただし、設立当初の目的は、アルメニア系の子どもたちに民族の歴史、言語、キリスト教徒としての誇り・宗教観などを教える教員を養成することにあった²⁸⁾。アルメニアはレバノンと地理上だけでなく、民族、言語、宗教など文化面でも共通項はほとんどなく、そもそもレバノンに居住するアルメニア系住民の大半は20世紀初頭を中心にオスマン帝国から難民として流入した人たちであった²⁹⁾。ハイガジアン大学の生徒数は修士課程を含め約700名で、その半数をアルメニア系の生徒が占める。シリアやイランからのアルメニア系留学生も多数学んでいる。特徴はアルメニア学科をもつことであり、また、アルメニア系生徒に対してアルメニア語とアルメニア史を必修にすることで彼らの民族文化を支える役割を担っている。現在、経営・経済学部、人文学部、科学学部の3学部のもと、アラビア語・文学科、アルメニア学科、経営学科、キリスト教学科、経済学科、教育学科、英文学科、歴史学科、政治学科、心理学科、生物学科、物理学科、数学科などの学士課程のほか、教育学、心理学、会計学、経営学の修士課程をもっている。アルメニア系住民は、交易や貴金属加工業などの分野で富をなし、レバノンでもっとも成功した異民族といわれているが、ハイガジアン大学の存在と発展はその象徴といえるものである。

3 湾岸諸国の高等教育とレバノンの位置づけ

近年の原油価格の高騰を受けて湾岸諸国の

経済は活況を呈している。例えば、UAE³⁰⁾のドバイでは世界最高を誇るブルジュ・ハリーフア（「ハリーフアの搭」の意味）が建設されるなど、活発な建設事業や大規模な開発事業が行なわれている。また、急増するオイルマネーを背景に「学園都市構想」など高等教育に対してそれらの資金が投入されている。UAEやオマーン、カタールなどの湾岸諸国は、1990年代後半より自国の高等教育の拡充を図るとともに、米国やヨーロッパの高等教育機関を中心に、それら著名な大学をブランチとして誘致するプロジェクトを推進している。

（1）UAE

アブダビ近郊のサディヤット島では、商業や観光施設の推進を含め、中東地域の文化発信地の拠点としての未来都市を目指し、大規模な開発プロジェクトが行われている。2013年にはフランス・パリのルーブル美術館の分館「ルーブル・アブダビ」、アメリカ・ニューヨークのグッゲンハイム美術館の分館「グッゲンハイム・アブダビ」、安藤忠雄氏が設計を手がける海洋博物館など、さまざまな文化施設が建設される計画である。ニューヨーク大学アブダビ校は、2014年にサディヤット島に完成する新キャンパスに移転を予定している。アブダビにはニューヨーク大学の他に、米マサチューセッツ工科大学（MIT）や仏ソルボンヌ大学が進出している。また、ドバイにはハーバード大学やロンドン・ビジネススクールなども現地校を開設している。

UAEは1971年に独立し、オイルマネーを資本として、その後の30年間で急速に高等教育機関を整備してきた。主な地元の大学はUAE大学、高等技術大学（Higher College of Technology, HCT）、ザード女子大学などである。女子生徒は国内の大学へ進学す

る割合が高く、男子生徒は海外へ出る傾向が強い。国内の大学では女子学生の割合が一般に高い。そのため、自国内で高等教育の質を高め、男子生徒の海外への依存度を減少させ、さらに海外の優秀な生徒を自国へ招くこともUAE政府による積極的な大学誘致に結びついていると考えられる³¹⁾。

（2）カタール

教育制度は6・3・3制をとり、義務教育は高等学校までであり、同課程までの授業料は無償である。教育改革も進み、教育省が管轄する従来の公立学校に加え、教育最高評議会が管轄するインディペンデント・スクールが増加している。インディペンデント・スクールとは政府の資金提供を受け、一定の教育水準の範囲で教育および教員人事など独自の運営が認められた学校をいう。

国立大学として、カタール大学が開設されている。科学研究センターの開設や経営・経済学分野での学生の育成に注力している。授業料はカタール国籍をもつ学生には無償であるが、外国籍の学生は有償であり、入学者数も一定の制約を受ける。一方、カタール政府は高等教育ならびに外国の高等教育機関の誘致にも力を入れている。例えば、カタールのドーハ市郊外の「教育都市」にはカーネギーメロン大学、ジョージタウン大学、テキサスA & M大学、ノースウエスト大学、バージニア・コモンヘルス大学、ウエル・コーネル医学校の米国系の6大学が進出している。その他、1995年には首長のシェイク・ハマド氏が設立したカタール財団はカタールを技術革新の先進国に導くリーダーシップをもった学生の育成に取り組んでいる。また、石油、天然ガスなどの民間セクターによる人材教育も盛んになりつつある³²⁾。

(3) オマーン

オマーン政府はとくに1990年代から人的資源の開発に重点を置き、教育部門の制度開発ならびに拡充に力を注いできた。1998年には従来の6・3・3制に新たな制度(初等教育10年, 中等教育2年)が導入され, 移行期間として, 現在では2つの制度が並行して進められている。新制度の目的は, 労働市場の需要にこたえるために, 理数系ならびにコンピュータ教育に重点が置かれている。また, 英語教育も重視され, 初等課程1年から関係する授業が導入されている。高等教育では, 1986年に最初の総合国立大学としてスルタン・カブース大学が設立された。同大学は教養・社会学, 商業・経済学, 教育学, 科学, 農業・海洋科学, 工学, 医学・保健科学の7学部を有している。その他, 教員養成のための教育大学が6校, イスラーム法研究のためのシャーリア大学が1校, 工業・技術大学が5校開設されている³³⁾。

上記湾岸諸国では, 豊かなオイルマネーを自由貿易都市構想や金融センターなどに投資するとともに, 高等教育に対しても欧米の著名大学の誘致を進めている。各国政府は, 大学施設の建設費のみならず奨学金なども負担している。そのねらいは, 自国での高等教育の質の向上を目指すとともにアラブ諸国の学生を対象にした「教育ビジネス」と位置づけられている。欧米の著名大学の学士号が取得できること, 中東地域で居住しながらであり生活費がそれほどかからないこと, イスラーム文化・価値観を保持しながら学ぶことができるなどが湾岸諸国のセールスポイントになっている。

4 結語

レバノンの高等教育は, オスマン朝支配下,

キリスト教宣教師の布教活動の一環として設置された「読み・書き・算」を中心とした教育機関を礎とし, プロテスタントとローマ・カトリックが競い合うなかで開設された性格をもつ。両派の高等教育をめぐるライバル関係を促進したのが印刷機の導入とその成果であった。アメリカ大学の前身にあたる教育機関が1866年に, サン・ジョゼ大学の前身にあたるものが1875年に誕生した。両大学とも高い教育水準を維持し, 運営母体や開設学部, 授業言語や留学生の受け入れなどに相違があるものの, レバノンのみならず, 中東地域を代表する高等教育機関として発展してきた。

レバノンには, 現在, 38の高等教育機関が開設されている。学生の総数は167,090名でそのうちレバノン人は145,942名である。1997年当時に比べ, 高等教育機関の数で15機関, 学生数で6万人以上の増加となっている。これらの数字からレバノンにおける高等教育は依然として拡大期にあるとみることができる。留学生数は, 1997年には全体の28%に相当する24,000名であったのに対し, 大幅に学生数が増加した2008年時でもその数はやや下回り21,148名となり, 比率は14.5%へと低下した。さらに, ムニール・バシュールによれば, 1972-73年には50,803名のレバノン人学生のなかで, アラブ諸国からの留学生は27,624名を数え, その比率は約55%であったという³⁴⁾。この推移は, レバノンで学ぶ留学生が1970年代のように5万人を超え, 全体の50%以上を占めるような状況にはなく, それは同時に, レバノンが留学生数をベースにした「中東の教育センター」としての位置づけの変化を意味している。その背景には, 中東地域各国の高等教育機関の拡充とともに湾岸諸国を中心にした高等教育戦略が影響していると考えられる。もはやレバノンは「中東の教育センター」に値しないのであろうか。

本論で紹介した38高等教育機関には、キリスト教カトリック系の大学があり、プロテスタント系があり、東方教会系があり、アルメニア教会系があり、イスラーム系大学が開設されているなど宗教宗派組織が運営に関与する大学がある。さらに、アメリカ系大学、フランス系大学、ドイツ系大学など外国系大学も設立されている。すなわち、湾岸諸国の高等教育が欧米の科学・技術を中心とした学部・学科を開設しているのに対して、レバノンは百貨店を例にすれば、品揃えが豊富で消費者の選択肢が多い高等教育を展開しているといえる。また、カタールの事例にあるように、自国民とそれ以外で授業料や学習機会の相違がみられ、すべての学生に等しく開かれた制度には至っていない。このように、留学生数という観点ではすでにピークを打ったとも考えられるが、レバノンは多様で選択肢の多い高等教育の提供ならびに広く開かれた高等教育の定着という強みを持ち、今後とも「中東の教育センター」であり続けられる要素をもっている。

【注】

- 1) H. P. ヒッテイ (小玉新次郎訳) 『レバノンの歴史』山本書店, 1972年, 230頁。
- 2) 中東地域では2010年12月のチュニジアに端を発した民主化要求や反政府活動がエジプト, バーレーン, イラン, ヨルダン, モロッコ, アルジェリア, リビア, シリアなどに広がっている。これらの背景には (1) 長期政権とそれに伴う汚職・腐敗 (2) 人権を軽視した民衆弾圧・強権政治 (3) 経済・所得格差 (4) 少数派による多数派支配 (例えば, バーレーン王国における王家スンナ派によるシーア派支配) などが指摘されている。
- 3) レバノンでは18の宗教宗派が公認されており, その多宗派社会を統治するシステムとして「宗派主義」が採用されている。宗派主義は社会の基盤を宗派に置くもので, 政治・行政分野では宗派を単位とした固定化がなされる一方, 婚姻・相続・養子縁組などの文化領域ではそれぞれの宗教権威や宗教法が, また, 学校教育ではカリキュラム・教育内容の編成, 教材の選定などの権利が広く認められている (三尾真琴「レバノンの教育計画: 公立・私立学校の格差と教育改革」山内乾史・杉本均編『現代アジアの教育計画』学文社, 2006年, 103-115頁)。
- 4) マロン派は5世紀に成立した東方系キリスト教に属する一派で, 7世紀以降にレバノン山地に移りコミュニティを形成した。その教義は, 「キリストは人性と神性の二つの性格をもつものの, その性質は一つに統一されている」という単性論であり, 当初異端としての扱いを受けてきた。18世紀にローマ法王の権威を受け入れた (ユニアット教会と呼ぶ)。十字軍をつうじてフランスを中心としたヨーロッパ諸国と結びつき, フランスの委任統治下では政治的な優位を確立した (武笠明子・三尾真琴「キリスト教マロン派」綾部恒雄監修『世界民俗学事典』弘文堂 2000年 208-209頁)。
- 5) マロン派は, シルク交易に加え, 十一世紀末に派遣された十字軍に対し道先案内を務め, 武器供与をおこなうなどの支援をつうじ, フランスならびにローマ・カトリック教会との関係を強固なものにした (H. P. ヒッテイ 前掲書 152頁)。
- 6) Kamal S. Salibi, *The Modern History of Lebanon*, Caravan Books, 1977, p.123.
- 7) これらが可能になったのは, 1535年にフランスはオスマン朝と通商条約をむすび, 同地域での交易上の特権を得たこと, さらに, 同条約によりオスマン朝支配地域の住民に対する布教活動の自由が認められたからである (Michael Johnson, *Class & Client in Beirut - The Sunni Muslim Community and the Lebanese State 1840-1985*, Ithaca Press, 1986, p12.)。
- 8) Michael Johnson, *op. cit.*, p.12.
- 9) Kamal S. Salibi, *op. cit.*, p.132.
- 10) David C. Gordon, *The Republic of Lebanon - Nation in Jeopardy*, Croom Helm, 1983, p.23.
- 11) Michael Johnson, *op. cit.*, p12.
- 12) CERD (レバノン国立教育研究所) 年報2007-2008年。

- 13) 例外としてフリースクールに対する助成がある。フリースクールとは、1950年代に公立学校で教室が不足したおり、私立学校が公費の助成を受け初等課程を提供したことが始まりで、現在でも初等課程全体で20%程度を占めている。
- 14) この結果、文化系学部には定員を超える学生が入学し、教育施設や学習環境などの点で大きな問題となっている。レバノンの新聞は、「実験室はまるで台所ようだ」と報じている (*The Daily Star*, 20 July, 2005)。
- 15) Adnan El-Amine (レバノン大学教育学部教授—当時) に対する聞き取り調査 (2008年3月) による。
- 16) *Al-Ihsaa Al-Awalie Lil-Aam Al-Dirasi*, p.47.
- 17) アメリカ大学 (AUB) カタログ (2009年) より抜粋。
- 18) サンジョゼ大学 (USJ) 憲章より抜粋。
- 19) 両大学とも外国語を教授言語とした授業が比較的良く維持されている。また、多文化理解の観点から、近年、サン・ジョゼ大学内に学術交流日本センターが開設され、日本語講座が開講されている。
- 20) Munir Bashshur, "Higher Education and Political Development in Syria and Lebanon", *Comparative Education Review*, vol.10, 1966, p.458.
- 21) 外務省ODA情報 (<http://www.mofa.go.jp/Mofaj/Gaiko/oda/date/zyoukyou>) による。
- 22) *The Daily Star*, 12 Feb. 2002.
- 23) *Al-Ihsaa Al-Awalie Lil-Aam Al-Dirasi*, p.44.
- 24) ただし、学長ならびに大半の学部長はエジプト人が占めている (アラブ大学教養学部メイツ学部長への聞き取り調査—2011年9月実施)。
- 25) http://en.wikipedia.org/wiki/Beirut_Arab_University より抜粋。
- 26) アラブ大学メイツ学部長への聞き取り調査による。
- 27) *Haigazian University Catalog, 2007-2009*, p. 11.
- 28) ハイガジアン大学ポール・ハイドスティアン (Paul Haidostian) 学長への聞き取り調査 (2011年2月) による。
- 29) 詳細は、三尾真琴 「アルメニア—レバノン、シリア」 綾部恒雄編 『世界民俗学事典』 弘文堂 2000年 56頁を参照。
- 30) UAEはドバイやアブダビなど7つの首長国によって構成され、アラブ首長国連邦と呼ばれる。
- 31) UAEの高等教育については、在日本アラブ首長国連邦大使館での聞き取り調査 (2010年8月) ならびに、<http://news.livedppr.com/article/detail/4897473>の情報を参考にした。
- 32) カタールの高等教育については、在日本カタール大使館での聞き取り調査による (2010年3月)。
- 33) オマーンの学校教育については、在日オマーン大使館での聞き取り調査による (2010年4月)。
- 34) Munr Bashshur, *The University in Lebanon and the Question of Cultural Diversity*, 1996, 未刊行。